**「行動学研究１００選　Behavior Studies 100」（仮題）　ご協力のお願い**

2019年4月

松島俊也（北海道大学理学研究院、matusima@sci.hokudai.ac.jp）

動物行動（行動生態学、動物心理学、神経行動学）をご教授されている先生方へ

　動物行動を俯瞰する、高いレベルの大学教材を開発したいと考えました。しかし容易ではありません。動物行動を教授する教員がそもそも多くない上、所属する分野が多様です。理学系の行動生態学と神経行動学の間には今も深い溝があります。他方、動物心理学は文学部に属していて、理学系とは異なる用語・理論・手法を発達させました。これらを体系化した1冊の教科書を成り立たせることは大変に困難です。それに代わって、演習書・資料集として重要な論文を共有する事を考えました。

　背景に近年の科学研究への危機感があります。テクニカルな議論が先行し、何を問うかが後回しにされて、学問がやせ細っているように思うのです。行動をめぐる諸学も例外ではありません。しかし講義室で学生と対面し格闘する時、我々教員はしっかりマイルストーンとなった研究を語り、重要な発見や概念がどのようなコーナーを回って今我々の目の前にあるのか、語ってきたはずです。これを再確認し分野間で共有する事ができるだろう、本当の意味の古典論文を共有したい、と考えました。いわゆる「クラッシックな匂いのする論文」に限るものではありません。年代が新しくとも古くとも、学問の流れを変えた必読論文をまとめていきたいのです。

　それぞれの分野を代表する論文、学部専門から大学院修士までの間に必読と考えられる論文を中心に、それぞれの先生方の現場の講義資料の中からご提案ください。いくつでも構いません。ただ、これは科学史ではありません。現在の科学に対してインパクトを持たない論文は省きます。極端に古いものは含まず、20世紀以後に限ろうと思います。ヒトを対象とする研究も含めますが、あくまで動物の1種として位置付ける人類学に限り、一般心理学の研究は対象としません。

　ご提案を受けたうえで重複や分野の偏りを検討し、ご提案頂いた方に原稿執筆を依頼します。この仕事は監修委員会（下記）にお委ねください。論文100選と書きましたが、半分の50選に絞り込んで各項目のページ数を増やすこともあり得ます。

いずれにせよ、学生諸君に購入して読むことを、教員が自信をもって薦めることのできる、品位の高いものにしたいと存じます。詳しくは以下をご覧ください。良い本になれば、隣接分野の研究者にも、また行動学に関心を持つ初学者や高校等で教えておられる先生方のためにも優れた独学書となるはずです。

具体的な編集と出版の方針は以下の通りです。

（１）A5版見開きで2ページ（100選の場合）あるいは4ページ（50選の場合）とし、それぞれの論文について次の要素を含むものとします。

1. 論文の表題と引用（オープンアクセスであればURLのQRコード）
2. その研究が行われた時代の学問的背景と、研究者の動機を述べた文章
3. その研究の手法・結果・解釈を述べた文章（図表を1個含む）
4. その研究の重要性と影響、さらに最近の研究状況を語る文章

（２）動物行動学会・動物心理学会・比較生理生化学会の3学会をコアとして、論文提案者＝執筆者（何十名になるでしょうか？）を募ります。もちろん、他の学会の方のご提案もひとしく受け付けます。読者層（販路）は上記の３学会を中心に、日本動物学会・日本神経科学学会・日本生態学会・農学系諸学会までを念頭に置きます。

（３）編集と発行を丸善出版に打診しています。意欲ある学生が無理なく購入できる、教員も学生に購入を勧められる価格を目指します。

概ねのスケジュールは以下の通りです。

* 2019年5月～6月：執筆者と論文の募集
* 2019年7月～9月末：執筆者と論文の確定
* 2019年10月～2020年3月末：第一次原稿の提出
* 2020年4月～6月末：編集と原稿の確定
* 2020年12月：出版

なお分野ごと論文ごとに語彙が異なっていても問題としません。辞書・辞典ではありませんので、語彙の統一を図るより、研究者がなぜその言葉を紡ぎ出す必要があったのかを大事にします。研究者の生々しい言葉を伝えるものにしたいと存じます。

この出版については、現時点では丸善出版に可能性を打診している段階ですが、まだ企画として決定したものではありません。ご賛同いただき、提案者（＝執筆者）としてご参加いただける方は、2019年6月30日をめどに添付フォームにご記入のうえ松島宛てお送りください。頂いたご提案を資料として丸善出版への正式な打診としますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

（４）監修者としてご協力いただける方を、僭越ですが松島の方から打診しご快諾を頂きました。

　動物行動学会より：沓掛展之先生（総研大葉山）、中田兼介先生（京都女子大）

　動物心理学会より：伊澤栄一先生（慶応大文）、後藤和宏先生（相模女子大）

　比較生理生化学会より：佐倉緑先生（神戸大理）、松島俊也（北大理）

（以上）